

令和3年度 第1回 三岳荘小松崎病院認知症疾患医療センター 連携協議会・研修会

令和3年6月29日に令和3年度第1回三岳荘小松崎病院認知症疾患医療センター連携協議会・研修会を開催しました。当日はZoomを利用し、筑西保健医療圏と古河・坂東保健医療圏の地域包括支援センターや、医療関係者、施設関係者など、約70名にご参加いただきました。

連携協議会では、当センターの令和2年度実績報告と、各市町村における初期集中支援チームの活動報告を行いました。当センターへ初診された方の多くはアルツハイマー型認知症の診断ですが、次に多いのはMCI（軽度認知障害）となっており、早めの受診が多いことなどをお伝えしました。また、初期集中支援チームの活動は、地域の状況に合わせて会議を行い介入されていることや、困難ケースを抱えて日々奮闘されていることが分かりました。

研修会では、茨城県西部メディカルセンターで認知症看護認定看護師としてご活躍されている大崎 喜久代 先生より「コロナ禍での認知症ケアについて」ご講演をいただきました。感染予防のために制限された生活の中で、趣味や日課を続けること、なじみの関係が途絶えないようにすること、支援者が心身ともに安全(健康)な状態であることが認知症のある方にとって良い状態につながるのお話しでした。

まだまだ、感染対策が必要な状況ですが、地域とのつながりを大切に、認知症のある方への支援を深めていきたいと思っております。

